

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

③論文作成支援の充実

《人社系》

●長崎大学経済学研究科経済経営政策専攻

「新興金融市場分析の専門家育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・修士論文の作成はもとより、その前提となる海外フィールドワークや国際カンファレンスのため、英語運用能力の育成を行った。当初は、本学の留学生センターの理解と協力を得て、学生一人ひとりに英語に堪能な留学生のチューターをつけた。しかし、チューターと学生との連絡がうまくできないなどの理由で、思うように英会話の時間を設けることができない学生がいた。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・学生一人ひとりにチューターをつけたのは、個々の学生の自由な時間に英会話等の英語運用能力の向上を図ることを可能にすることを目的としたからである。しかし、本研究科の学生とチューターとの連絡が不十分で思うほどの効果が上がらない学生がいたり、実施に必要な書類等がなかなか提出されないことなどにより円滑な実施ができないことがあった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

- ・留学生センターのアドバイスを受け、非常勤で英会話の講師を雇うことで対応した。学生には事前に都合のよい時間を聞き、全員が参加可能な時間帯に開講した。講師にも、本取組の趣旨を理解してもらったところ、論文の英語のチェック、効果的なプレゼンテーションの方法やパワーポイントの作成等も講義をしてもらうことができた。